

徳島ペンクラブ通信

発行
徳島ペンクラブ
徳島市東沖洲2丁目1-13
徳島県教育印刷(株)内
TEL 088-664-6776

191号

2022年4月15日
(令和4年)

1967年(昭和42年)創立

徳島ペンクラブ賞決まる

最優秀賞

散文

田中

遥泰さん

韻文

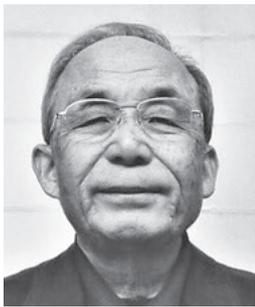
船越

淑子さん

徳島ペンクラブ選集P A R T 39に掲載された作品の中から、会員の皆さんの投票で選ぶ徳島ペンクラブ賞の受賞者が決まりました。

散文部門(随筆、小説、評論など)では田中遥泰さんの「寂聴の『場所』を検証する」が13票を獲得、韻文部門(俳句、川柳、短歌、詩、連句など)では船越淑子さんの「美学の訓」が12点で最優秀賞に選ばれました。

優秀賞は、散文部門で青木慧さんの「偶然と不思議」が12点、韻文部門では上窪青樹さんの「懺悔室」が11点を獲得して選ばれました。田中さんは「寂聴さんは昔からのファン、甥御



青木 慧さん

散文部門優秀賞



田中遥泰さん

散文部門最優秀賞



上窪青樹さん

韻文部門優秀賞



船越淑子さん

韻文部門最優秀賞

さんと同窓ということもあって親しくさせていただったので喜びもひとしおです」と話していただきました。また船越淑子さんは「一生、歳時記を友として新しいものに挑戦して参りたいと思います」とのコメントを寄せてくれました。

今回も例年通り散文、韻文に分け、二人ずつ投票してもらい、各部門とも一人目2点、二人目1点で計算しました。42名の会員の皆さんから投票があり、最優秀賞、優秀、佳作が決まりました。作品名、受賞者の得点は次の通りです。

表彰式は6月18日(土)に予定している徳島ペンクラブ総会で行われます。

○散文部門

最優秀賞 「寂聴の『場所』を検証する」

田中 遥泰 13点

優秀賞 「偶然と不思議」 青木 慧 12点

佳作 「韃靼に咲いた言の葉」

熊谷 和代 11点

○韻文部門

最優秀賞 「美学の訓」 船越 淑子 12点

優秀賞 「懺悔室」 上窪 青樹 11点

佳作 「コロナ禍にハルキを読む」

松田 一美 10点

佳作 「タイムマシンの設計図」

藍 人 10点

第23回とくしま随筆大賞

応募者募集
6月末締切

徳島ペンクラブと徳島新聞社では、徳島県内在住者や県出身者を対象にとくしま随筆大賞の作品を募集しています。随筆や主張などの散文であれば、内容は自由ですが、未発表でオリジナルな作品に限ります。6月30日に応募を締め切り、8月下旬には各賞を発表。とくしま随筆大賞、徳島新聞社賞受賞者には、賞状と賞金3万円が贈られ、徳島新聞と徳島ペンクラブ選集に全文が掲載されます。



徳島ペンクラブ賞 得点を得た作品名

散文部門

- 9点 「少年の糾弾」
- 8点 「箱階段」
- 7点 「笑えない話」
- 「秘湯・五色の湯紀行」
- 6点 「寝るより楽は」
- 5点 「続 浩一の旅路」
- 4点 「孔の開いた魔法瓶」
- 「吟行引出句素」
- 3点 「第十樋門(上板町)」「電話」
- 「洛中日記」「天泊り淵」
- 「旧吉野川の川港跡」
- 2点 「父は詠まれない」

韻文部門

- 「小説『光跡』序」
- 「アダージヨト短調」
- 「勝浦川上流(上勝町)」
- 「飯尾川(石井町)」
- 9点 「秋は」
- 7点 「歩むほかなし」「ダリの時計」
- 6点 「三日月のせる」「冬の蝶」
- 5点 「開花前線」「臨月の」「和顔施」
- 4点 「雛罌粟や」「秋水」
- 3点 「私の現在地」
- 「生命は奇跡でできていく」
- 「祈り続ける」「松韻」
- 2点 「花みかん」「日の暮れぬうちに」

●**応募規定** 1人1編。4000字詰め原稿用紙の場合、3枚以上5枚まで、ワープロなどの場合、12000字以上20000字以内。

●**字数の過不足は審査の対象外。** 手書きの場合は、4000字詰め原稿用紙A4横版で縦40字、横20行(12ポイント位)の原稿用紙に通し番号(ページ数)を記入。作品名と氏名は枠外に記入し本文は1行目から。別紙に①作品名②氏名(以上ふりがなを付ける)

③性別④年齢⑤郵便番号及び住所⑥電話番号⑦学生・生徒の場合のみ、学校名と学年を記入し、原稿に添付(個人情報情報は本募集にかかわる事業以外には使用しない)。作品は外国人の方も日本語に限る。作品発送は郵送に限り、郵送された原稿返却や訂正はできない。

●**作品送付先** 〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目1の13 徳島県教育印刷(株)内 徳島ペンクラブ「第23回とくしま随筆大賞」係

●**応募締め切り** 2022年6月30日(当日消印有効)

●**各賞の発表** 8月下旬、徳島新聞で発表予定。受賞者には直接通知。

- 賞**
 - ▽とくしま随筆大賞 賞状・賞金3万円(1名)
 - ▽徳島新聞社賞 賞状・賞金3万円(1名)
 - ▽優秀賞 賞状・賞金1万円(3名)
 - ▽奨励賞 賞状・賞金5千円(若干名)

●**表彰式** 9月上旬を予定。ただし新型コロナウイルス感染状況によっては開催できない場合がある。

●**審査員** 依岡隆児(徳島大学総合科学部教授)▽柏木康浩(徳島新聞生活文化部担当部長)▽丁山俊彦(徳島ペンクラブ会長)▽竹内菊世(阿波の歴史を小説にする会会長)

●**詳しいことについての問い合わせ先**
徳島ペンクラブ「とくしま随筆大賞」実行委員会委員長
上窪青樹 電話 090-7142-2852

ペンクラブ選集Part 40

作品を募集

●特集は「とくしま各駅停車の旅」

来年1月発行予定の「ペンクラブ選集」Part 40では、今年で日本の鉄道が開業一五〇年、徳島では同一二三年を迎えることから「とくしま各駅停車の旅」(仮称)と題して県内の各駅を会員の方々に紹介していただきます。

明治5年9月、新橋⇨横浜間にわが国で初めての駅が開通し、日本も鉄道の時代を迎えます。徳島県内でも同20年代以降いろいろな鉄道会社が組織され、明治32年2月、徳島鉄道により徳島⇨鴨島間の列車が県内初の鉄道として開通しました。その後も、鉄道会社の設立が相次ぎ、鉄道網は充実していきますが、当初はすべて民営でした。ところが、鉄道国有論を唱える軍部の意向もあって、すべて国有化。戦後もいろいろな変遷を経て、今を迎えています。今年からは世界で初めてのDMVが県内で走り始め、注目を集めています。

内容は各駅に対する思い出、周辺の名所や観光地など何でも結構です。県内すべての駅を紹介したいため、先に、ご希望の駅を募ったところ、多くの人から希望が寄せられました。ただ重複している駅も多く、まだ希望者のいない駅は次の通りです。作品締め切りは一般作品同様9月末ですが、下記の駅について書いてくださる方は、この特集を担当する栗谷健(☎088・692・3223)まで、4月末までにお知らせください。

3月24日現在、希望者のいない駅名は次の通りです。

- 【徳島線】府中駅 麻植塚駅 西麻植駅 阿波川島駅 山瀬駅 阿波山川駅 江口駅 三加茂駅 阿波加茂駅 【高德線】吉成駅 【土讃線】祖谷口駅 阿波川口駅 【牟岐線】阿波富田駅 文化の森駅 西原駅 阿波中島駅 阿波橋駅 北河内駅 浅川駅 阿波海南駅 【阿佐東線】海部駅 宍喰駅 【鳴門線】鳴門駅 立道駅

●一般作品

例年通り随筆や評論、短編小説などの散文、俳句や川柳、連句、現代詩の韻文を募集しています。どんなテーマでも結構です。今年は「とくしま各駅停車の旅」を含めて、徳島ペンクラブ賞を選ぶ予定です。

●作品原稿と掲載負担金

特集「とくしま各駅停車の旅」の場合は必ず写真を付け、半ページ、

1ページが基本。半ページ1500円、1ページ3000円の掲載負担金が必要です。

一般作品の場合は、見開き2ページ7000円(追加は2ページごとに4000円)です。

いずれも、後に会計から送付される郵便振替などで納入くださるようお願いいたします。

●原稿提出の締め切り

9月末日(発行が遅れないよう必ずお守りください)

●送付先

①とくしま各駅停車の旅

〒771-1252

板野郡藍住町矢上字北分41-20

栗谷 健 宛

mail takeshi-a@md.pikarane.jp

電話 088-692-3223

携帯 090-4971-4628

FAX 088-692-1221

②一般原稿

〒771-4262

徳島市丈六町長尾62-15

関 真由子 宛

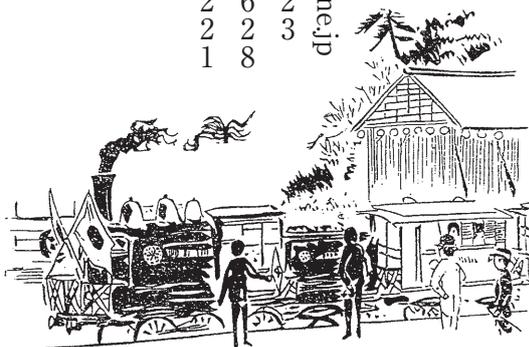
mail mayu0204@ma.pikarane.jp

電話・FAX 088-645-1840

※原稿は必ずコピーをとっておいてください。

※手書き原稿の場合は、お手数ですがコピーと原稿をお送りください。

※一般原稿は受け付け次第、ご連絡を差し上げますのでお電話番号を明記してください(プロバイダーによっては返信できないことがあります)2~3日しても連絡がない場合はお手数ですが担当までご連絡ください。



開業時の徳島駅(徳島日日新聞)

訂正 なお先に、徳島ペンクラブから「とくしま各駅停車の旅」の希望駅を募集した際、原稿の分量として「3分の1ページ、3分の2ページ、1ページ」としていましたが、この募集のように掲載負担金も含めて訂正します。

フリーライター



徳島県内の各地に
今も残っている農村
舞台や県立阿波十郎
兵衛屋敷で多くの人
が人形浄瑠璃をはじ

め様々な芸能を演じたり鑑賞し
たりして、楽しんでいきます。今
回は、国の重要無形文化財にも
指定されている人形浄瑠璃の語
りや音楽について、その魅力の
ひと味違った楽しみ方をご紹介
します。

一つは、素浄瑠璃です。「素」
とは人形が出演せず語り手であ
る太夫と三味線とで物語を語る
もので、語り手と三味線とが一
体となって物語の登場人物の台
詞や仕草、感情、情景などをすべ
てを表現します。太夫の全身を
使った語りはもちろんですが、
三味線が語り手の恋人か女房役
かのように全身を耳として、弾
いて太夫を支えているところも
聴き所です。

このように目をつむって太夫の語り
と三味の音にじっと耳を傾けると、物
語の内容がより分かり、人物の感情や
場面の状況などを音で描き出す三味線
の多彩な表現も、より細かいところま
で聴き取ることができ、目の前に本来
の主演である人形ばかりでなく情景ま

浄瑠璃いろいろ

でもが現れてくるようです。さらに、
それぞれの場面を自由に想像すること
も出来るので、自分自身の頭の中でオ
リジナルな浄瑠璃を創造することも可
能です。

次に、淡路には人形も三味線もない
浄瑠璃があります。それは、だんじり
唄(浄瑠璃くずし)と呼ばれている
というもので、南あわじ市で行われる

神社の淡路だんじり祭の余興に
人形浄瑠璃の題材のハイライト
にメロディーをつけて唄うもの
です。淡路だんじり祭の主役
は、祭りの際に曳きまわすだん
じりで、赤い布団を5枚重ね、
そこに豪華な飾りや刺繍を施し
た見るも鮮やかな「布団だんじ
り」が主流です。しかし、それ
に負けず劣らないのがだんじり
唄なのです。それぞれの神社の
氏子たちが祭りのために練習し
てきただんじり唄を唄って競い
合う、言わば、氏子たちによる
団体芸、大衆オペラです。だん
じりを背に大の大人たちが顔を
ゆがめて声を限りに熱唱する様
には観る者・聴く者を圧倒する
迫力があります。

いずれも、阿波人形浄瑠璃や淡路人
形浄瑠璃という伝統文化の土壌の中
で育まれたふるさとの芸能です。是非、
ふるさとの伝統文化に触れて、豊かな
ふるさとの文化の本当の姿を見つけに
出掛けてみてはいかがでしょうか。

(鎌田義人)

受賞おめでとうございます

(敬称略)

第19回とくしま文学賞

随筆部門 熊谷和代
連句部門 最優秀賞 早見敏子・優秀賞 関真由子

第43回徳島歌壇賞

三輪和 竹内菊 二橋満璃
角鹿荒人(山口久雄)・松尾初夏(岡本信子)

新入会員

(敬称略)

宮内 史郎 〒771-0219

板野郡松茂町笹木野字八北開拓428の1



○今年は新橋―横浜間で日本初の鉄道
が走り始めて150年。そこで特集
として県内の各駅を紹介することに
しました。全部の駅を網羅するには
会員の皆様の協力がぜひとも必要で
す。鉄道利用者は減っていく一方の
ように思いますが、一方で熱狂的な
鉄道ファンもいます。私の祖父もそ
うだったようで、徳島線開業の時
区間の延長ごとに何度か見に行っ
たらしく汽車や駅のス
ケッチを日記に残しています。これは何鉄?

○通信や選集の編集作業をこれまで少数でや
っていました。これは何鉄?
が、いろんな作業を関さん、栗谷さんを中心
に加わってやっていくことになりました。充
実した選集が期待できそうです。

(石)